



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

明治24年(1891年)
濃尾地震



昭和34年(1959年)
伊勢湾台風



平成12年(2000年)
東海豪雨



平成23年(2011年)
東日本大震災



平成28年(2016年)
平成28年熊本地震



平成30年(2018年)
平成30年7月豪雨
(西日本豪雨)



救うことを、
つづける。

日本赤十字社の活動資金へのご協力をお願いします。

ごあいさつ

日頃、赤十字の人的活動に対し、ご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

日本赤十字社愛知県支部では、国内外で様々な人的活動を行っています。

中でも災害救護活動は、赤十字の最も重要な活動です。平成30年度は、西日本を中心とした豪雨や台風などの風水害、北海道胆振東部地震を始めとした地震災害などが、各地で被害をもたらしました。

こういった災害時において、赤十字は被災された方々に寄り添った救護活動を展開しております。また、平時には、行政、各関係機関、そして地域の防災組織とともに災害に備えるための活動を続け、地域の自助共助力向上に努めております。

人間のいのちと健康、尊厳を守る赤十字活動は、皆様の継続的な協力なしには実施できません。これからも赤十字に対し、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



日本赤十字社愛知県支部
支部長

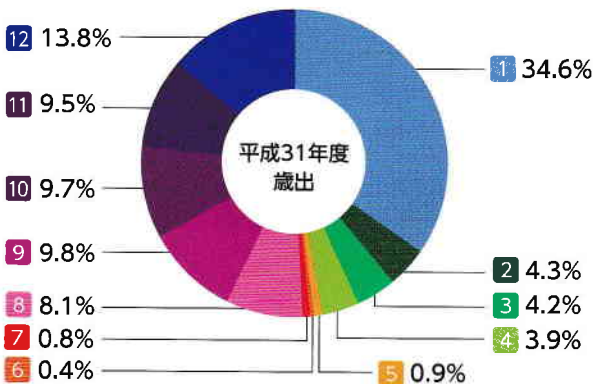
神田 真希

平成31年度 予算概要

平成31年度における日本赤十字社愛知県支部
一般会計歳入歳出予算の概要をご報告します。

■ 歳入

内訳	予算額	
1 社資収入	1,077,000,000円	86.0%
2 補助金及び交付金収入	5,703,000円	0.5%
3 繰入金収入・資産収入・雑収入	113,668,000円	9.1%
4 前年度繰越金	54,629,000円	4.4%
計	1,251,000,000円	100.0%



■ 歳出

内訳	予算額	
1 災害救護事業と救護看護士の養成に	432,460,000円	34.6%
2 救急法や健康生活支援講習などの普及に	53,517,000円	4.3%
3 赤十字ボランティアの活動と育成に	52,457,000円	4.2%
4 青少年赤十字の育成と普及に	48,195,000円	3.9%
5 社会福祉事業などに	11,332,000円	0.9%
6 血液事業の普及啓発に	5,242,000円	0.4%
7 国際的な活動に	9,470,000円	0.8%
8 広報・活動資金募集のために	101,545,000円	8.1%
9 赤十字病院救急医療体制の整備に*	123,099,000円	9.8%
10 市町村における赤十字活動に	121,551,000円	9.7%
11 全国的な赤十字活動に	119,250,000円	9.5%
12 支部の運営に	172,882,000円	13.8%
計	1,251,000,000円	100.0%

*使途が指定された活動資金による事業を含みます。

活動資金のご協力方法

下記の方法でご協力いただけます。*その他のご協力方法につきましてはホームページをご覧ください。

地域でのご協力

毎年5月の赤十字運動月間を中心に、地域の町内会・自治会などのご協力により、会員(社員)へのご加入と活動資金のご寄付を募っています。

遺言や相続財産によるご協力

「自分で築いた財産を相続させた後の余剰財産を寄付したい」「故人の遺産を社会のために寄付したい」旨のお申し出をいただき、遺言や相続財産、ご香典のご寄付を承っております。

チャリティイベントでのご協力

皆さまで実施されるチャリティイベントでの収益をお寄せください。ご寄付いただいた団体さまにもお礼状、感謝状などをお渡しさせていただきます。

企業でのご協力

ここ数年、多くの企業さまが社会貢献活動への関心を高められ、直接的な活動資金のご寄付だけでなく、様々なキャンペーンを通じた売上の一部のご寄付や、活動でのご協力をいただいております。

税制上の優遇措置

お寄せいただいた活動資金のご協力は、税制上の優遇措置が受けられます。

個人情報の取扱い

日本赤十字社(本社及び都道府県支部)は、会員(社員)、寄付金(「海外たすけあい」を含む)、海外救護金、国内災害義援金へのご協力を際して取得する個人情報について、厳重に管理・保護を行うとともに、受領証や活動報告等の送付及び事業資金等の募集活動の目的のためにのみ使用します。



〒461-8561 名古屋市中区白壁1-50 電話(052)971-1591

日赤 あいち

検索



災害救護活動

～被災者に寄り添って～
赤十字では被災者の声に耳を傾け、心に寄り添った救護活動を実施しております。

愛知県支部では平成30年7月豪雨(西日本豪雨)で医療救護班を被災直後から派遣し、救護活動を展開しました。

活動の内容も、**救護所の設置や避難所等での診療の他、避難所生活への支援やこころのケア**など様々です。

また、全国的に活動している赤十字のネットワークを活かし、**長期的に支援を継続**できるところが特徴です。



避難所等での診療



避難所生活への支援



こころのケア

皆さまからのご支援は

「ひとりでも、多くの人を救う」

活動にそのまま繋がります

自助力・共助力の向上

過去の大规模災害での経験を活かし、地域の自助力・共助力の向上を図り、将来発生が危惧される南海トラフ地震などの災害による被害を減らす取り組みを県内各地で行っています。

取り組みの内容は、名古屋市内における防災訓練で防災・減災の普及、赤十字防災セミナーの開催、地域で共に暮らす外国人住民の方へのいのちを救う知識や技術を伝える多文化共生社会への取り組みなど、多岐に渡っています。



いまでもすぐ近く
(千種区豊橋小学校にて)

なごや市民総ぐるみ防災訓練で
防災教育の実施

赤十字防災セミナー

多文化共生社会への取り組み

国際活動

日本からの思いやりの心を届ける
●自然災害による被災者や紛争犠牲者への緊急救援
●復興支援や防災を通じて地域の基盤づくり
●健康問題を改善するための保健衛生事業

赤十字ボランティア

互いに助け合うネットワークづくり
●県内で約2万人の赤十字ボランティアが活動
●災害救護活動、救急法・幼童安全法などの講習指導、地域のボランティア活動などで活躍

医療活動

地域の皆さまに信頼される病院として
●質の高い救急医療及び高度医療を提供
●中核的医療機関として、地域医療に貢献
●災害時における国内外への医療チーム派遣

青少年赤十字

子どもたちの育成
●学校教育の現場で、子どもたちが自ら「気づき、考え、実行する」力を養成
●愛知県内では42万人の子どもたちが活動
●防災教育の推進

血液事業

いのちのパトロンをつなぐ
●安全な血液製剤を24時間365日いつでも届けられる安定した供給体制づくり
●若年層に対する献血の重要性についての理解促進

看護師養成

災害救護を支える赤十字の看護師
●将来国内外を問わず広く社会に貢献できるように質の高い看護教育を実施
●国際人道法や災害時の看護を学習

講習会の開催

ひとりでも多くのいのちを守るために
●緊急時の手当など命を守るための知識や技術の普及
●従事者や介護予防、地域で行う高齢者支援等にも活用されています
●水の事故から身を守る方法などの講習会を開催

講演会の開催

皆さまからご協力いただいた活動資金は、上記の事業以外に広報活動、市町村における活動等にも活用されています。
詳細は裏面の予算概要をご参照下さい。
日本赤十字社公式アカウント「ハートちゃん」

